

諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校

3月6日

平成27年度22

(平成22年度指定)

清陵SSH海外科学セミナー旅行隊無事帰国！

2月29日から5泊6日の日程で米国アラスカ州フェアバンクスを訪問していた生徒諸君と引率教諭33名が3月4日16時、成田空港に帰着しました。その後バスで長野に向かい各所で諏訪には22時ころ無事戻りました。

アラスカ大学での9時間の英語による自然科学分野の講義受講と大学関係者に向けた英語による課題研究の口頭発表と質疑応答体験、極地環境を生かした課題研究、永久凍土トンネルとアラスカ大学博物館見学研修、アラスカ大学Wood centerにおける現地の方々との交流、そして、旅行期間を通して各自フェアバンクス市内での食材を購入しての自炊生活体験と盛りだくさんの計画でしたが、それぞれ貴重な体験を積んで帰国したようです。

本校の海外研修を10年余り支援していただいたアラスカ大学名誉教授の赤祖父俊一氏からは、「今回は今までより質問も多く、(講義を担当して下さった)先生方は非常に喜んでおいででした。皆さん今後も頑張ってください。」との激励のメールをいただきました。

現在、研修を終えて総括的な感想アンケートと、一つひとつの研修項目についての自己評価(評価基準をもとに事前の期待値、事後の活動評価を行う)を行っています。

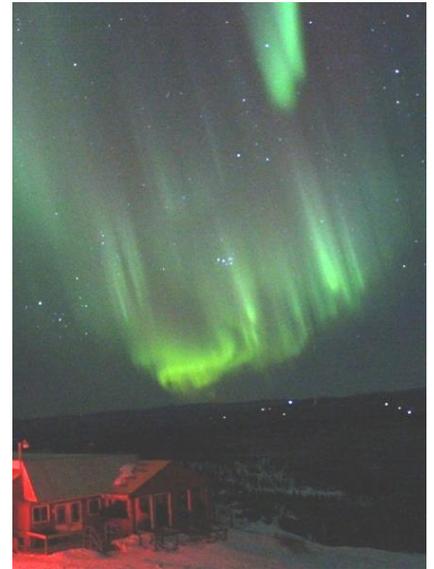
中間段階ですがアンケート結果の一部を挙げると、

	大変良かった	良かった	その他
オーロラ観測	100%	0%	0%
大学講義	50%	50%	0%
永久凍土トンネル研修	63%	37%	0%
市街地買物(自炊用)	75%	25%	0%
総合評価	100%	0%	0%

記述欄には「ハードな日程であったが、一つひとつの企画が面白いものばかりでした。」「この研修に参加できたことは一生の思い出となると思います。」などと記載されていました。また、要望としては、「現地の方と会話する機会を増やす。」「オーロラの観測の時間をさらに増やす。」「大学生との交流の機会を増やす。」などが出されていました。



3月7日以降、生徒諸君は、海外科学セミナーでの学習成果、極地課題、各自の旅行体験をまとめて記録に残す取り組みを始めています。



各自、自分で搭乗手続きを行いました。



ボーイング 747-400 ジャンボで一路シアトルへ向かいました。



Alaska airline Boeing 737でアラスカへ 尾翼のエスキモーの顔が特徴